民報
藤島

2024年11月3日

第1469号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉱一（宝徳）
TEL0235-64-3941
携帯090-8929-4221
ＨＰは「藤島 加藤鉱一」と検索で入力を。

発行経費にカンパをお願いしています。民報配布者にご連絡下さい
（月２００円程度）
10月 34人 23,220円
9月 29人 25,720円

藤島地域の公共交通の再編

「定時定路線」に乗り換え、鶴岡市街地へ

庄内交通の路線バス「鶴岡ー清川線」と「鶴岡ーゆ～Ｔｏｗｎ線」は、令和７年３月31日で廃止されます。

藤島地域公共交通検討委員会では、既存のデマンド交通を活かし、地域全体の公共交通再編対策が検討されています。

令和７年度から藤島地域に導入する地域公共交通は、「デマンド運行」（予約制）と、「路線定期運行」（予約なしの定時定路線）の併用運行です。

現在のデマンド交通は鶴岡市街地まで運行していますが、鶴岡市街地行きは廃止となり、路線定期運行に「乗換」となる方針です。

乗換場所は、ＪＲ藤島駅と幕野内です。

路線定期運行は、廃止される「鶴岡ー清川線」の代替となるもので、10人乗り（乗客９人）のジャンボタクシー車両を使用します。

デマンド運行は、５人乗り（乗客４人）の小型タクシーです。

運航日は、

路線定期運行が、月曜日から金曜日まで、

デマンド運行が、月曜日から土曜日まで、

祝祭日と年末年始は休業します。

運行本数は、

路線定期運行が、上り２便、下り２便、

デマンド運行が、往路（行き）４便、復路（帰り）４便です。

(3) 運行時間帯

① デマンド運行

	1便	2便	3便	4便
往路	6:55	7:55	9:00	12:45
復路	10:30	11:30	14:00	17:45

② 路線定期運行

	1便	2便
上り（鶴岡方面）	7:03～7:41	9:09～9:49
下り（藤島方面）	13:25～14:01	17:10～17:46

運行ルートは、

路線定期運行が、京田橋～ＪＲ藤島駅～幕野内～エスモール～黒沢眼科までの24停留所、

デマンド運行が、藤島市街地と乗換場所までで、長沼・八栄島地区は、三川ルート（火曜日）と庄内町ルート（木曜日）を設定します。

運賃は、

路線定期運行が、ゾーン料金制（１００円～３００円）で、障害者と小学生以下は半額とし、学生割引や、庄内交通の高齢者割引定期券（ゴールドパス）も設定、

デマンド運行が、各地区内と藤島市街地（及び庄内町、三川町）に分け、２００円～５００円とします。

乗換の不便さ

「ドアツードア」のデマンド交通で、別の車に乗り換える不便さが新たに生じます。

高齢者の場合、体への負担や転ぶなどのリスク、天候、時間的なロスが心配されます。

運行ルートの「協立病院」は廃止されます。

運営主体を地元住民とするため、新たな組織化と、地元負担金（１世帯２００円）が検討されています。

ふるさと賛歌

鈴木重雄（八色木）

村の店々

明治13年（１８８０）の八色木村の家並み地図がある（飯鉢文書）。

これによると、戸数１０９戸で、在郷にしては大きい村である。

松嶺街道の中間地であり、藩主の休憩地でもあったから、地方都市の形態であったと思う。したがって、店屋も多かったのではないだろうか。

ここに、記憶をたどり、店の名をあげてみよう。

石川兵ヱ衛門（染め屋）
海藤長七（酒・菓子製造販売）
齋藤仲蔵（居酒屋）
齋藤忠治郎（魚屋）
齋藤佐五兵ヱ（菓子製造・薪炭）
鈴木伝五ヱ門（せんべい・だんご）
安藤知五治（菓子・学用品）
渡邊鍛治屋（蹄鉄・鉄工）
鈴木伝右ヱ門（風呂・そば打ち）
石沢吉五郎（はり師・表具・床屋）
鈴木彦左ヱ門（魚屋）
飯鉢米太郎（学用品・醤油・麹）
小鷹兼吉（酒・塩・タバコ・味噌・醤油・缶詰）
おちよど家（豆腐・油揚げ）
熊木商店（雑貨・砂糖・衣類・小間物）
齋藤喜兵ヱ（下駄製造販売）
丸山敬五郎（床屋）
かも屋（豆腐・油揚げ）
松田三郎（自転車）
吉田屋（東京店）（助産婦・薬・駄菓子）
小鷹源之助（瓦製造）
小鷹亀蔵（高級反物・タンス・コマ）
戸林新左ヱ門（巫女・桶屋）
齋藤勘右ヱ門（指物師・彫刻）
齋藤多右ヱ門（鋳物・板金）
鈴木文右ヱ門（精米・大豆粕粉砕工場）
齋藤三太郎（麹・納豆）
小鷹仁右ヱ門（コンクリート製造）
齋藤式部（魚屋）
小鷹三郎左ヱ門（桶屋・コンクリート製造）
石川富太郎（漢方薬・下駄製造販売）

以上は、大正初期から昭和30年頃までの記憶と、先輩から聞いて書いたものである。

小中一貫校（義務教育学校）への疑問⑤

疑問10 平成大合併と同じく、「分かれ道」に立っているのでは？

藤島庁舎の職員は現在44人、平成大合併前の170人（嘱託職員含め）から4分の1に減ってしまいました。

「平成の大合併」を推進した西尾勝元地方制度調査会会長は、地方を惨憺（さんたん）たる状況に追いやり、「誤った政治判断だった」と、2015年3月の国会答弁で述べていました。

合併の分かれ道で、進むべき道の判断が間違っていた。いま、全国で進む小中一貫校・義務教育学校で、「分かれ道」に立っているのではありませんか？

疑問11 温海庁舎の取り組みに、学ぶべきではありませんか？

令和6年9月末の藤島地域のゼロ歳児は40人で、1歳児55人から15人も減っています。

温海地域の出生数は20人前後ですが、小学校2つと中学校を、一つにまとめる話はありません。

むしろ、温海庁舎が中心となり、幼児保育から学校教育まで、「非認知能力を高める教育」に取り組んでいます。

「非認知能力」とは、テストで測定できない、意欲、興味、自信、協調など、生きるうえで必要な力、学びに向かう姿勢を高める能力とのことです。

温海庁舎の取り組みは令和4年12月に、内閣官房の地方創生に向けた少子化対策の事例に取り上げられました。

地域の自然と伝統を教材にし、地域で子どもを育てる温海庁舎に、学ぶべきではありませんか。

（関原弥里）

○酒井忠篤（さかいただずみ）は、1853～1915、1862年13代庄内藩主。華族令で伯爵の爵位（戦後廃止）。

（酒井忠篤）

○黒崎馨（くろさきかおる）は、研堂（けんどう）、庄内を代表する書家、1852～1928。酒井家から養子。庄内柿の酒井調良は実兄。庄内随一の書家、高弟に松平穆堂。母は藤島・大川渡の成澤家いつ。

（黒崎馨）

（写真は、荘内日報、荘内酒井歴史文化振興会HPから）

東田川史跡物語

稲作改良碑⑪

註釈2

青山　崇

○18行「宣」（せん）は、すべて、あまねく。

○右同「惟」（これ）は、これ。

○19行「化」（か）は、変える。

○右同「斛」（こく）は、石（こく）に同じ。

○20行「天邪（鬼）」（あまのじゃく）は、現代では「他者の思想・言動に逆らうような言動をするひねくれもの、つむじ曲がりを（あまのじゃく）と称するようになった。

○右同「永賓福禄」（えいひんふくろく）は、長い客には幸福と給与を。

○右同「鑽」（さん）は、物事を究める（研鑽をつむ）。

○右同「珉」（びん）は、玉に似た美しい石。

○同「貞」（てい）は、正しい。

○1行追加「羽前」は、1869（明治元年）出羽国の置賜・村山・最上・田川4郡を統合し羽前国。その北を秋田に羽後国とした。

○2行追加「膏腴」（こうゆ）は、土地が肥えている。

○3行「折田平内」（おりたへいない）は、1847～1905。1882～1883、2代山形県令、北海道開拓使大書記官、黒田清隆側近、警視総監、福島など3県知事。

○5行「相良守典」（さがらもりつね）は、1837～1918。庄内藩士。東田川郡長1891～1898、南村山・西田川・北会津の郡長。山形師範学校長。

（禅龍寺の相良守典の墓）

○関原弥里（せきはらわたり）は、1853年～1932（昭和7年）。旧松嶺村に生まれる。山形県師範学校兼山形中学校（現山形県立山形東高等学校）教諭、翌年、山形県学務課長を経て、1898年東田川郡長郡となり26余年在任。在任中は、水力発電所建設・稲作改良・電気事業などに功績をあげた。

きびちょ

総選挙の結果は

裏金非公認に大枚が。またもや「しんぶん赤旗」のスクープだった。首相怒っていたな～。何故ここで取り上げるのかって。当然でしょう。党本部は、選挙に公認者と同じ額を非公認の者にも出したんだ。これで怒るのは首相らの話を聞いてきた国民だ。公約もどこで変わるか信用できないが、裏金問題で非公認としながら、公認と同じ扱いしたんだから。

▲驚いた事に、非公認に渡した頑張り料は2000万円だった。どう思いますか、皆さんこの額。かつてどっかで問題になった金額と同じじゃないですか。首相は街頭演説で「非公認に出しているのではない。党支部にだ」と。その党支部長は非公認だった。どんな言い訳をしようとも国民は納得出来ません。ご飯論法（今朝ご飯は食べていない。パンだった）が得意だった彼ならナンと発するだろう。

▲立候補者は何人だか、全部でナンボになるのか。俺は計算できませんが、そんな大金が本部にはあるんだ。「私にも2000万円ください」「俺も非公認だ」がトレンド入りした。そんなお金が3年前の選挙より500万円増えたんだって。

▲このお金。政党交付金なんだ。という事は、俺達の税金から出たって事。国民を欺いてだもんね。そんなこと許せないと、ガッポリ票が自民外に行った結果が今回の選挙だった。共産党に繋がらなかったのは、残念だったが。

▲どっかで問題になった金額・とは、退職後に必要な金額として厚労省が発表しながら、問題が大きくなるからと、アベが握りつぶした金額でした。（石川）